

ブラジル向け洋上原油処理設備を受注内定

～CO₂回収・貯留技術を採用～

平成 22 年 11 月 1 日

東洋エンジニアリング株式会社

東洋エンジニアリング株式会社（取締役社長 山田 豊）と三井海洋開発株式会社（MODEC、取締役会長 山田 健司）が共同でシンガポールに設立した MODEC and TOYO Offshore Production Systems Pte. Ltd. (MTOPS) は、このたび MODEC より、浮体式海洋石油生産・貯蔵・積出設備（FPSO）に搭載する船上処理設備の発注内示書を受領いたしました。

本 FPSO は、ブラジルの国営石油会社であるペトロbras社向けに納入されるもので、ペトロbras社（45%）、BG グループ（30%）、レプソール社（25%）の 3 社コンソーシアムが保有する BM-S-9 ブロックにあるグアラ鉱区の海洋油田開発に利用される予定です。

本設備には、船上で原油中の CO₂ を分離し再度油田に戻す CO₂ 回収・貯留技術 (CCS: Carbon Dioxide Capture and Storage) が採用され、地球環境保全の面からも配慮がなされています。

MODEC は、ブラジルでも既に 6 件の FPSO 納入実績を持つ世界トップクラスのコントラクターです。同社とのアライアンス(協業提携)による FPSO 受注は今回で 4 件目、また当社のブラジル向けのプロジェクト実績は 26 件目となります。当社は、資源開発や FPSO といったアップストリーム分野の強化に取り組んでおり、今後も同社との協力関係をますます強化し、FPSO 分野の受注拡大を目指していきます。

受注概要

客先	三井海洋開発株式会社（英文名 MODEC, INC. 本社：東京都千代田区）
受注者	MODEC and TOYO Offshore Production Systems Pte. Ltd. (本社：シンガポール)
対象設備	浮体式海洋石油生産・貯蔵・積出設備 (Floating Production Storage and Offloading ; FPSO) に関わる日量 12 万バレルの石油生産能力を持つ船上原油処理設備
係留地	ブラジル、リオデジャネイロ沖合に位置するグアラ鉱区
役務内容	設計、機器資材の調達およびモジュール製作、据付までの一括請負
原油生産 開始時期	2013 年第 1 四半期の予定

お問い合わせ先

東洋エンジニアリング株式会社 広報・IR室 [担当：川腰、深沢]

TEL：047-454-1113

